

支部だより

— 室 蘭 —

室蘭に支部が出来てからちょうど五年目になる。それ以来在蘭出品者はすべて支部員と言う形で懸命に制作し地区展開のため頑張っています。例えその年に運悪く選からはずされたとしても地区展開前後になると労をおします自発的にかけ寄つて来ます。そんなところが他地区と少々違つた支部形態だと思ひます。つまり支部結成前の地区展はそのすべてが富士鉄主催で行なわれていました。富士鉄なる母体から離れた現在、われわれが相互に金を集め合い計画を遂行してゆかなければならないこと、地区展を通じてつと横のつながりを保ち文化不毛の地と言われがちな室蘭の美術文化の向上に務めようと話し合つたからなのです。もちろん市内全般の横のつながりもあるから全道展支部だけに孤立していると言うことはありません。みんながお人好しの上に、ひと癖もある支部の面々、その横顔にチョッピリふれてみましょうか。まず市議会議長の高野次郎氏当地きつてのジェントルマン、支部長で昨年の地区展の時は氏の会社のトラックを拝借して運搬費をうんと儲けさせてもらいました。ナイターが続いて大変だとか……。白い毛が多くなつて来た割りに気のお若い三浦慶次郎氏(渉外)校長室がアトリエとか、人生修業の成果あつつか女性に関するお話しが大変お上手。剣道三段(自称)のモサ公熊谷善正氏(渉外)方々で用心棒を勤めていると言うのは嘘でしたか、梅割りと焼鳥の権威です。白衣に白マスク富士鉄衛生室の笹谷武氏、口癖の神経痛も昨年あたりから何処へやら、もつぱら機械スクラップの「採集」に力を入れている様子、飲むと酔いが出ます。雑貨店主(もちろん酒もある)の太田実氏みかけによらず太い。人類の平和を口にしながら絵はたいいていラッカーで仕上げます。経費の見透しがきくので支部の会計、特技? 胃袋に酒を

入れることに決まっています。当支部の紅一点金丸恭子氏(広告宣伝係)先生屋のかたわら「バク」の飼育に余念がありません。登山やスキーのイデタチだけは一流です。米屋の若旦那栗橋徳一氏、配達中のミゼットのの中には、美人に限り乗せてくれます。室蘭では野外個人展の経験者と言うと彼くらいのも。お菓子百貨店の主菊地睦月氏、シェール形式の自作看板が御自慢で、絵の溶油は全部アフロリ酒じやないか、と誰かが言つてしまつたつけ。「毒虫」や「海の生物」の料理ならお家芸の谷内丞氏、どんな状態にあつてもカナイの所へ帰る時間はキッチンと、まつたく良く守ります。飲む程にロッカピリ、気合術、手品、ウタイ、ダンス、映画説明と、なんでも飛び出る鉄道屋のタフガイ浅山咲知氏(渉外)、自衛隊に射撃されるトドを哀み、そのミタマを絵にしたこともある。青いものが好きですが氷水屋の株主でもなさそう……。割れ目をのぞき、しみ跡をいびり、そこから或る種の幻想をよび起すのが得意の石塚潔氏(庶務)とみに最近皮下脂肪が多くなつた先生屋……。男性です。恋の妙薬が効いたか昨年(二十一年)になつた西村徳一氏、いつも総天然色の夢をみているとか大変幸せなお方で電力屋。魚市場勤めで朝夕眺めている泥臭さい波止場がすつかり生活と結びついた感じの富樫日出男氏……。先生屋の前田哲雄氏、いつもキチョーメンな眼玉を眼鏡越しに光からせると思つたら「権威」に対する痛烈なレチスタンスの現われだそう……。シラミが五万匹の歌ですつかり支部の面々を圧倒した原田省吾氏顔骨相をみると、「本物」と出ていますぞ。ミスと間違われて悪文をもらつたとかないとか、先生屋のくせに「白痴」や「ベテン師」の養成に力を入れていたか、先生屋の(副支部長)、お教に弱いためか大抵ツルシアグラレテいます。放浪、浪費に関しては支部の模範、特技は食道を酒で洗うことだそうで……。富士鉄病院長平間章氏日鋼病院長松岡祥氏共にその筋のケンキウがおいそがしくてこのところ、ちよつと御手がまわらぬ御様子……。とまあざつとこんなところでしようか。

— 東 京 —

国画会春陽会の展覧会が、今、開かれております。春の美術展

(1961・5 渡辺真利記)

旅館ういす亭
朝里川温泉

閑静で
上品な旅館

電話小樽(2) 6875

とか秋の美術展とか昔はいわれて一般鑑賞者への呼かけもジャーナルな意味でにぎわしかつたのですが、昨今上野美術館では一月から十二月まで通してそれぞれの団体展が常時開かれていて、情報人も食傷しているのかさわがなくなり、街の画廊では毎月、毎日誰かの個展、グループ展があり、上野から日本橋、銀座、渋谷、新宿、池袋とデパートの画廊を含めてちよつと数えても五十二から画廊がありますので毎朝何枚かの展覧会案内状が郵便箱に届けられますが、アトリエで仕事をしておりますと、なかなか腰があがらないで出歩いようになりまして。手近にいつとも見れるという気安さもあり、ぜひ見ようと思う展覧会も見のがしてしまつたりしております。友人、知人の展覧会を見る機会にあれば、これを見てという具合で朝から出かけるのと夕刻まで一日たつぷりの重労働にもなる始末で、このような気重さを感じるのには私だけではなないようにも思われます。また、近頃はそれぞれの立場での集会の多いことも驚きです。レジャー時代とかいつておりますが、画家には余暇がなくてみなさん困っているのではないかと思つたりして、全道美術東京本部の集まりも持ちたく思いながらその機会を失っております。下記に会員の活動状況をお知らせします。

三十五年十一月 大阪日仏画廊個展 田辺三重松
 三十六年二月 東京大丸個展 田辺三重松
 三十六年二月 ヨーロッパへ出発 三雲洋之助、小川マリ
 二月二十七日～三月四日 銀座文芸春秋画廊個展

三月十六日 ヨーロッパ、アメリカの旅を終えて帰京

只今パリの建物を描いている 田中忠雄

五月 札幌へ出張のため帰省 松島正幸

五月 札幌へ出張 本郷 新

五月 札幌へ出張 山ノ内社夫

五月 フランス、イタリア留学 伊本 淳

五月 美術雑誌五月号「アトリエ」に日曜画家のハンド・ブック油絵の手ほどきを書く 小島真佐吉

五月～六月 国際展への制作中

本郷 新、田中忠雄、田松三重松、赤穴 宏、

北岡文雄

五月 野外彫刻展（日比谷公園）へ出品 山ノ内社夫

五月 国画会展出品のため上京して帰郷 国松 登

六月 銀座国際画廊二人展 田辺三重松、高間惣七

六月 滞欧作品展 大阪日仏画廊 田中忠雄
 七月 東京滞欧作品展 田中忠雄
 七月十一日～十六日

北会会展、道抽象作家グループにより新発足展
 日本橋白木屋 難波田龍起、八木保次、赤穴
 一、宏、長谷川 晶、小野洲一、高橋由明、藤沢友

以上ですが報告もれの方もありますので、ご寛容願います。以後は事務的に記録することも考えております。

（小島真佐吉）

釧路

中央から隔絶された釧路地方では、新しい芸術にふれる唯一の機会は、マス・コミによる以外にない。美術についていうならば、年に一回きりの地方展に頼るより他に手段がないのである。こうした状況下で釧路地方に支部が作られるほどのまもりは見せていないが、会員望月正男（油）、米坂ヒデノリ（彫）、会友伊藤鈞（彫）が一般出品者と共にこの地方で活躍していることが、やがては結実するだろう。

自分達が生まれ、育つた土壌は、その中にいる限り良さも悪さも自覚されずに見過されてしまう。例えば全道展の中で、他の地域のそれにふれたとき、あらためて互いのよさを発見するように、地球という単位の中で全道展を考えたとき、もうそこでは安っぽい地方性とか、風土性を殊の他強調する必要はないし、むしろそうした枠がとり払われぬ限り、全道展の前向き姿勢も質的な高まりも、色あせたものにならないと思う。

日本の絵かきは、まず喰うための絵、次に展覧会用の絵、三番めに自分の研究のための絵という仕かけで多忙の極みであるらしい。本来ならばこの三つがすべて等記号で結ばなければならないのに、ごく限られた選良だけがそれを許されている。「実力」の世界であることを否みはしないが、「実力」の考え方もずいぶんゆがみがあるように思われなければならない。全道展では、せめて前記の三者が（やや等しい）ぐらいなところになつてほしいものである。

釧路地方の出品者はほとんどが学校関係である。

静かなお部屋

燃えないお家は

吹付石綿トムレックスと

耐火板ファイヤボードで

日本アスベスト株式会社札幌出張所

札幌市北三条西二丁目西向 TEL(3)0520 (型録進呈)

望月 正男(油) 学大教官 伊藤 鈞(彫) 同
 錦谷 慎(彫) 同 辻 弘(彫) 北中教諭
 米坂ヒデノリ(彫) 湖陵高講師 小向 昭一(油) 島中教諭
 川瀬 敏夫(油) 旭小教諭 会田 和(油) 弥生中教諭
 柳 悟(油) 東中教諭 境 信義(油) 阿寒中教諭
 高木 昭(油) 厚岸 白石 富男(油) 学大生
 福井 凱将(油) 学大生 白石 富男(油) 学大生
 ざつとこんな工合で、学校に勤務し、あるいは学生であることが比較的矛盾が少ないことを意味している。この地方は不純物が少ないということにもなりそうである。

旭川

全道展旭川地方出品者座談会(北修宅にて)

高橋「目録編輯の竹内君から、この地方の座談会を求められてお集まりをいただいた。岸さんが上京中、江部乙の一木君が札幌移転で、ちよつと淋しいが以下森田君に司会をお願いします」
 森田「全道展の場合、多くの会員が中央画壇とのつながりがあるので、新人の登龍門と考えられ、大変やりがいがある」 志村「中央の展覧会に入つても全道展に落ちることがある。これくらい全道展が厳選であることが、道内の一般に知られていないのが、出品者は他展とくらべて損をしている」 森田「そのことを含めて、旭川と全道展の関係、または近況などを」 高橋「一昨年旭川の学大の先生達と優秀な学生を中心に大量に道展に参加したため、これは全道展の旭川地方にとって大きな損失だ。目下のところわずかの会員と、以前からの出品の皆さんの外にはちよつとの間の、びる可能性が少なくなつたが、近郊からの出品の様子もあるので漸次のびてゆくと思う」 森田「旭川の移動展について」 亀岡「移動展は五回くらいと思うが一般にアピールしなければ意味がない。もつとその地方の出品作の記事写真などの紹介等が

会員 岸 葉子 志村邦猛 出品者
 同 森田喜昇 平間正造 同
 同 高橋北修 亀岡広郎 同
 佐藤朋恵 同

必要と思う」 森田「出品者側から見た全道展への考え方等を」 志村「全道展と他展は同一に考えすぎている。全道展に落ちた場合、他展に落ちたより低く見ている。他展より全道展の方がむずかしいと思つて自分の力を試めすために出品するのだが、一般はぎやくに考へている。全道展の権威とでもいうものをもつとPRの必要がある」 亀岡「新人を養成する意味で、道展のように新人展の開催を望む」 志村「それと会員と出品者と年一度の懇親会以外に、気軽に話合う機会をもつてほしい」 平間「旭川の移動展の折、何名かの会員が毎年旭川にも見えるが、その時話合える機会をつくつてほしい」 森田「全道展の審査について」 高橋「会員が中央の各美術団体の会員で、各種各様の性格をもつた集まりでその点、中央にも道内にも例のないくらいで、それが全道展の特色でもある。全道展で、過半数の賛成で入選した作品は中央のどの展覧会でも入選確実であることは会員全体が自信をもっている。それだけに入選がむずかしいことになる。厳選のうらには、会場がせまいこと、内容を考慮すること、二つの理由があるが、私は地方を育てる意味から苛酷な厳選を望まないが、会場の問題はどおにもならない」 平間「全道展が厳選であるということが一般に知られていないので、他展と較べて出品者が損をしている」 森田「全道展の作品の傾向について何か」 高橋「最初から他展に較べて抽象画が多く、他展が具象作品の多い時代でも全道展は抽象画が圧倒的に多かつた。現在は、他展にも抽象画が見られるようになったが、全道展では、すでに抽象から前進した作品が多く、また昨年あたりから、世代のうえにたつた新しい具象作品もぼつぼつ現われてきた。その意味で絶えず道内では他展より前進している」 森田「大帝國のプライドもいいが、権威の名にあまえず、大衆とけこむことだ。その意味でPRが大切だと思う。この辺で旭川支部を結成しては」 佐藤「出品の度に、一人一人が大作をもつて札幌まで行くのは大変と思はれます。道展支部のように、まとめて発送するように支部があればと思います」 亀岡、志村「支部結成を急いでほしい」 高橋「本日の座談会から支部結成の機会を得たことは大きな収穫でした。会員の岸、森田氏とも相談の上至急実現したいと思ひます。私達会員も力作を発表するつもりで完成を急いでおりますが、出品の皆さんも、大いに張り切つてほしいと思ひます。会期も迫つてまいりましたので、皆さんの飛躍を期待して本日の座談会を終りたいと思ひます」

お気軽にお寄り下さい

成吉思汗鍋	1人前	150円
生ビール(ジョッキ)	1杯	100円
冷酒	1本	150円



札幌 南3西4
 いく代 となり

ガーデンホール